



鬼界先生近影

鬼界彰夫先生の退職記念号刊行にあたって

鬼界彰夫先生は、2019年3月をもって、永い間勤められた筑波大学を退職されます。このたび、先生のこれまでのご指導に感謝し、ご業績を記念するため『筑波哲学』第27号を退職記念号として出版することとなりました。

本号の特集として、鬼界先生の著書に対する論評記事と先生による応答を掲載しました。鬼界先生にゆかりのある、鈴木祐丞氏、小川祐輔氏、上田徹氏の三氏が各々の見地より執筆し、それに対して先生が応答しております。

先生の経歴およびこれまでの研究を含む業績については後の「略年譜」「業績一覧」でご紹介する通りですが、鬼界彰夫先生は日本におけるウィトゲンシュタイン研究を牽引し、大学においては学生の教育・指導に力を尽くして来られました。それによって私たちがこうむった測り知れない恩恵に対して、ここに深く感謝申し上げます。長い間、ありがとうございました。

河村 雄輝（筑波大学大学院人文社会科学研究所在学）

鬼界彰夫先生 略年譜

1954年3月7日、生まれる。

1979年3月、京都大学文学部卒業。

1982年3月、京都大学文学研究科にて修士号取得。

1990年2月、ニューヨーク市立大学にて博士号取得。

1992年5月～、筑波大学現代語・現代文化学系助教授。

2004年4月～、筑波大学大学院人文社会科学研究科助教授。

2006年4月～、同教授。

2011年10月～、筑波大学人文社会系教授。

鬼界彰夫先生 業績一覽

著書

鬼界彰夫, 『ウイトゲンシュタインはこう考えた——哲学的思考の全軌跡 1912–1951』, 講談社(講談社現代新書 1675), 2003年。

ルートヴィヒ・ウイトゲンシュタイン, 『ウイトゲンシュタイン哲学 宗教日記 1930–1932 / 1936–1937』, 編者=イルゼ・ゾマヴィラ, 訳者=鬼界彰夫, 講談社, 2005年。

『透明な沈黙 ウイトゲンシュタインの言葉×新世界『透明標本』』, 訳者=鬼界彰夫, 透明標本=富田伊織, 青志社, 2010年。

鬼界彰夫, 『生き方と哲学』, 講談社, 2011年。

鬼界彰夫, 『『哲学探究』とはいかなる書物か——理想と哲学』, 勁草書房, 2018年。

鬼界彰夫, 『ウイトゲンシュタインの思考運動を追う(仮)』, 皓星社, 近刊予定。

論文

鬼界彰夫, 「代数的精神——ライプニッツにおける認識と方法」, 『哲学論叢』(京都大学哲学論叢刊行会), 第8号, 19–31頁, 1981年。

鬼界彰夫, 「生きた鏡——モナド論と生物的世界観」, 修士論文, 京都大学, 1982年。

鬼界彰夫, 「過程と選択——存在の基底としてのモナド過程について」, 『哲学論叢』(京都大学哲学論叢刊行会), 第11号, 11–20頁, 1984年。

KIKAI, Akio, SCHLEPPEGRELL, Mary, TAGLIAMONTE, Sali. “The

Influence of Syntactic Position on Relativization Strategies.” *Variation in Language. NWAV-XV at Stanford*, ed. Keith M. DENNING, Sharon INKELAS, Faye C. MCNAIR-KNOX, John R. RICKFORD, Stanford: Department of Linguistics, Stanford University, pp. 266–77, 1986.

KIKAI, Akio. “Philosophical Foundations for a Humanistic Ontology of Language.” PhD diss., City University of New York, 1990.

鬼界彰夫, 「行為としての認識について」, 『哲学論叢』 (京都大学哲学論叢刊行会), 第 17 号, 114–28 頁, 1990 年。

鬼界彰夫, 「理論的知と非理論的知」, 『哲学』 (日本哲学会), 第 41 号, 197–207 頁, 1991 年。

鬼界彰夫, 「自然主義的認識論の哲学的意義」, 『科学哲学』 (日本科学哲学会), 第 25 号, 29–40 頁, 1992 年。

鬼界彰夫, 「日常と哲学」, 『言語文化論集』 (筑波大学現代語現代文化学系), 第 37 号, 31–46 頁, 1993 年。

鬼界彰夫, 「動物科学と言語の人間中心主義」, 『科学基礎論研究』 (科学基礎論学会), 第 21 卷第 3 号, 121–27 頁, 1993 年。

鬼界彰夫, 「チョムスキー 言語は臓器である」, 『言語』 (大修館書店), 第 23 卷第 10 号, 73–81 頁, 1994 年。

鬼界彰夫, 「新たなる知の理想を求めて (1) — M. ポラニーの認識論」, 『言語文化論集』 (筑波大学現代語現代文化学系), 第 41 号, 1–18 頁, 1995 年。

鬼界彰夫, 「新たなる知の理想を求めて (2) — M. ポラニーの認識論」, 『言語文化論集』 (筑波大学現代語現代文化学系), 第 42 号, 35–48 頁, 1996 年。

鬼界彰夫, 「新たなる知の理想を求めて (3) — M. ポラニーの認識論」, 『言語文化論集』 (筑波大学現代語現代文化学系), 第 45 号, 19–47 頁, 1997 年。

鬼界彰夫, 「『確実性について』の主題と構造 (上)」, 『言語文化論

集』(筑波大学現代語現代文化学系), 第46号, 149-79頁, 1998年。

鬼界彰夫, 「『確実性について』の主題と構造(中)」, 『言語文化論集』(筑波大学現代語現代文化学系), 第47号, 53-96頁, 1998年。

鬼界彰夫, 「『確実性について』に関する一考察」, 『科学哲学』(日本科学哲学会), 第31-1号, 35-51頁, 1998年。

鬼界彰夫, 「『確実性について』の主題と構造(下)」, 『言語文化論集』(筑波大学現代語現代文化学系), 第48号, 23-54頁, 1998年。

鬼界彰夫, 「『確実性について』におけるウィトゲンシュタインの思考(1)——第二部(§§66-192)の分析を通じて」, 『言語文化論集』(筑波大学現代語現代文化学系), 第49号, 39-127頁, 1999年。

鬼界彰夫, 「『確実性について』におけるウィトゲンシュタインの思考(2)——第三部(§§192-299)の分析を通じて」, 『言語文化論集』(筑波大学現代語現代文化学系), 第52号, 101-48頁, 2000年。

鬼界彰夫, 「ウィトゲンシュタイン最後の思考——『確実性について』第四部: §§300-676を巡って」, 『言語文化論集』(筑波大学現代語現代文化学系), 第55号, 57-172頁, 2001年。

鬼界彰夫, 「大学の理念, 機能, および運営について」, 『科学』(岩波書店), 第74巻第4号, 432-43頁, 2004年。

鬼界彰夫, 「言語の生物学的実在性と原型言語」, 『言語』(大修館書店), 第34巻第5号, 72-80頁, 2005年。

鬼界彰夫, 「私はなぜ規則に従うのか——制度、規範、「私」の概念的起源について」, 『RATIO』(講談社), 第2号, 365-435頁, 2006年。

鬼界彰夫, 「二つの言語——チョムスキーと後期ウィトゲンシュタイン

の言語観の関係について」、『思想』（岩波書店）、第 998 号、74-91 頁、2007 年。

KIKAI, Akio. “On Wittgenstein’s Concept of ‘Following a Rule’ and Its Implication for the Philosophy of Mathematics.” *Annals of the Japan Association for Philosophy of Science*, 16 (1-2): 19-35, 2008.

鬼界彰夫、「「私」はなぜ存在するのか——ウイトゲンシュタインから原制度的世界へ」、『RATIO』（講談社）、第 5 号、268-353 頁、2008 年。

鬼界彰夫、「感覚のパラドックスと私的言語論——『哲学探究』§§243-315 の一解釈」、『哲学・思想論叢』（筑波大学哲学・思想学会）、第 29 号、79-99 頁、2011 年。

鬼界彰夫、「今こそ読むべきウイトゲンシュタイン」、『ウイトゲンシュタイン 没後 60 年、ほんとうに哲学するために』、河出書房新社（KAWADE 道の手帖 哲学入門）、2-20 頁、2011 年。

鬼界彰夫、「感覚のパラドックスと私的言語を巡るウイトゲンシュタインの思想」、『哲学・思想論集』（筑波大学人文社会科学研究所哲学・思想専攻）、第 38 号、1-30 頁、2013 年。

鬼界彰夫、「『哲学探究』の「序文」を真剣に読む」、『哲学論叢』（京都大学哲学論叢刊行会）、第 43 号、14-26 頁、2016 年。

書評

Jerrold J. Katz *The Metaphysics of Meaning* (MIT Press, 1990), 評者 = 鬼界彰夫、『科学哲学』（日本科学哲学会）、第 32-2 号、115-25 頁、1999 年。

野矢茂樹著『哲学・航海日誌』（春秋社、1999 年刊）、評者 = 鬼界彰夫、『科学哲学』（日本科学哲学会）、第 34-2 号、122-24 頁、2001 年。

Michael Nedo *LUDWIG WITTGENSTEIN Ein biographisches Album* (C.H.BECK, 2012), 評者=鬼界彰夫, 『科学哲学』(日本科学哲学会), 第46-2号, 55-60頁, 2013年。

その他記事

鬼界彰夫, 「筑波大学の教養教育をどうする ミニ提言①」, 『筑波フォーラム』(筑波フォーラム編集委員会), 第43号, 71-72頁, 1996年。

鬼界彰夫, 「罪に汚れた過去への愛惜」, 『本』(講談社), 第30巻第12号, 9-11頁, 2005年。

鬼界彰夫, 「ウィトゲンシュタイン『哲学探究』」, 『言語』(大修館書店), 第35巻第7号, 88-93頁, 2006年。

鬼界彰夫, 「「倫理の書」」, 『哲学の歴史 別巻 哲学と哲学史』, 中央公論新社, 472頁, 2008年。

鬼界彰夫, 「住み続けたい町、住み続けられる町」, 『本』(講談社), 第36巻第7号, 58-60頁, 2011年。

島田雅晴, 鬼界彰夫, 井出里咲子, BLACK Grant, 岩崎宏之, 小野雄一, 「第一回 FD 研修会: 「異文化と英語」の教授法を中心に」, 『外国語教育論集』(筑波大学外国語センター), 第37号, 105-13頁, 2015年。